

第2号



発行日 令和4年3月15日

発行 奈良県立藤の木学園

編集 藤の木学園広報部

〒631-0043

奈良市菅野台2-43

TEL 0742-45-0691

FAX 0742-45-0692

mail fujinoki@office.pref.nara.lg.jp

### 発刊にあたって

みなさんこんにちは、いつもお世話になりありがとうございます。広報誌第2号発刊に当たりましてご挨拶させていただきます。

皆様方のご指導、ご支援によりまして、コロナ感染症下ではありますが、感染症予防をしながら、在園児・職員とも元気に生活しております。

さて、奈良県立藤の木学園は、昭和38年に開設された知的障害児入所施設である登美学園と、昭和30年に奈良市油阪町に開設された平城寮を前身とし、昭和44年に開設された視覚・聴覚障害児入所施設である筒井寮が発展進化し、令和2年4月に開設した、児童福祉法42条に基づき「障害のある児童を入所させて、これを保護するとともに、日常生活の指導及び独立自活に必要な知識技能を与えること」を目的とした、県内唯一の県立福祉型障害児施設（知的・視覚・聴覚）です。

施設の名称は、学園周辺の地名である富雄川周辺地域で古くからある地名「藤ノ木」に由来しており、その「藤」は、日本古来の花木であり、万葉集に26首も詠まれています。生命力が強く、樹齢も長い花木で「優しさ」がその花言葉となっています。藤の生命力、伸びる力を子どもたちの成長に重ね合わせ、子どもたちに寄り添い、優しくありたいという願いを込めて藤の木学園となりました。

藤の木学園では、8つの少人数グループ単位で生活するユニット制（そら・にじ、ほし・つき、さくら・こすもす、ひまわり・たんぼぼ）を導入し、家庭的な雰囲気の中で障害特性に応じたきめ細やかな支援を行っています。

当学園の理念としては、3つの柱「子どもへの支援」「家庭への支援」「地域への支援」を中心に据え、障害のある子どもたちの育ちを家族とともに支えていくほか、運営方針としては「安心・安全かつ居心地のよい生活環境の保障」「健全な心身と生きる力の育成」「子どもの自立・社会参加に向けた支援の充実」「家庭との連携・協働」「関係機関との連携による支援の充実」「職員のスキルアップ」の6つを充実させていきます。

### 奈良県立藤の木学園 園長 村中 幸雄

近況といたしましては、新型コロナウイルス感染症が蔓延してから2年目を迎え、徐々にではありますが日常を取り戻していているところです。園内行事についても、全体で行う行事はなかなか実施しにくい状況ではありますが、各ユニットフロア単位で園のマイクロバスを利用して日帰りのお出かけをするバスハイクを各ユニット3回程度ずつ実施し、少し違った楽しい場所にお出かけをして楽しみました。

夏にはささやかではありますが、各ユニットごとに多目的ホールで映画会や園庭で水遊びやシャボン玉等をしたり、各ユニットごとにスイカ割りや縁日を行ったりなどして楽しみました。

秋にはハロウィンや鍋等を囲むお楽しみ昼食会を実施したほか、年末にはクリスマス会や各ユニットで年末年始行事を行うなどして、家に帰れない子どもたちにも年末年始を楽しんでもらいました。

また、年明けには、新型コロナウイルスの再流行のため、規模を縮小しましたが森田記念財団からのUSJ招待にコロナ発生後初めて参加させていただくなど、徐々に楽しいイベントも開催できるようになってきています。

今後とも子どもたち、また、保護者、学校、その他関係者の皆様にもご不便をかけながらも日々職員一同、子どもたちの笑顔を頼りに生活支援を行っていきたくと考えているところです。

また、新施設居住棟の建設及び旧施設の解体、解体後の造成工事に際しまして、地域の皆様には、多大なご迷惑をおかけしております。

今後も、フルオープンを目指し、管理棟、指導訓練棟建築工事、外構工事等工事に伴い、地域の皆様方には引き続きご迷惑をおかけいたしますことを、お詫び申し上げます。

これまで、これからも地域に根ざした藤の木学園として努力して参りますので、地域の皆様方及び関係の皆様方のご理解・ご協力よろしくお願いたします。

最後になりましたが、子どもたちが安心して暮らすためには、地域の皆様や関係機関の皆様との一層の連携が必要となります。

このたび、広報誌を発行し、藤の木学園の考えや、現状、在園児の生活、援助等の課題や取り組みをお知らせするとともに、皆様方からも、いろいろなご意見やご要望等を当学園にお寄せいただき、地域にあってよかった藤の木学園といわれるようになり、当たり前な生活支援と学園発展の一助にさせていただきたいと存じます。



奈良県立藤の木学園  
学 園 旗  
(入所児童デザイン)

## 各ユニットの紹介



### そらユニット (視覚・聴覚障害)

視覚障害の中学生1名、聴覚障害の中学生1名、高校生1名、知的障害の中学生1名、知的障害の幼児1名の計5名が生活しています。

中高生の子ども達は将来の自立に向けて自分の課題に取り組んでいます。又、幼児は新年度からのこども園への通園に向けて歩行練習をして頑張っています。

### つきユニット (知的障害)

つきユニットは知的障害児重度・年長ユニットです。西養護学校に通う、小6から高3までの個性たっぷりの男子児童5名が切磋琢磨しながら生活しています。

今年度は本当にコロナに振り回された年で、子ども達には行事の縮小や帰省・面会等の制限を余儀なくさせてしまう生活だったと思います。その中でも食べることは大好きなので、ユニット内でBBQをしたりお好み焼きを焼いたり、オヤツもいつもとは違うものにししたりして少しでも楽しみが持てるようにしました。子ども達は曲を流すと自然にダンスを踊りだし、意外な一面を見せてくれたりして楽しい雰囲気になっています。

まだしばらくコロナの影響を受ける状況が続きますが、楽しく笑顔が絶えないユニットにしていきたいです。

### にじユニット (視覚・聴覚障害)

こども園からろう学校高等部までの女子5人のユニットです。おしゃべり大好き、ダンス大好き、作るの大好き、食べるの大好きなみんなで毎日、とても賑やかです。受験生のお姉さんもいて卒業・卒園もありお別れもありますが来年度新たなスタートを迎えることになる「にじ」の子どもたちです。

### ほしユニット (知的障害)

新型コロナウイルス感染症拡大から2年目の今年も、引き続きコロナの影響が大きい1年でした。子ども達は大好きなマイクロバスに乗って遠くに足をのばすことができず、食事の取り方をはじめ、生活スタイルが大きく変わりました。しかしそんな中でも、ユニット内の夏祭りや水遊び等の余暇活動で、子どもたちは元気な姿を見せてくれました。また、手洗い・消毒の習慣が付いたり、マスクを着けられるようになったりと、大きく成長することもできました。来年度は児童編成が変わりますが、各個人にあった生活ができるよう支援し、経験が豊かになるような行事を取り入れていきたいと思っています。今後もコロナと上手に付き合いながら、子どもたちの成長を願いたいと思います。

### さくらユニット (知的障害)

この1年はコロナの関係で、行事やユニットでのお出かけ等が中止になるという事もありました。バスハイクでは、7月に榛原子供のもり公園、10月に宇陀アニマルパークとトドキボウルでボーリングに行きました。いずれもお天気に恵まれ、久しぶりのお出かけに子ども達も喜んでくれて、楽しい時間を過ごす事ができました。

月1回の子ども会議では、各自、1ヶ月の目標を立てて頑張ったり、職員に向けての要望を出し合ったりし、自分の思いをしっかりと伝えてくれています。

まだ、コロナが落ち着く気配は見られませんが、今後も日々の体調管理等をしながら、みんなが元気で楽しく過ごせるさくらユニットにしていきたいと思っています。

### こすもすユニット (知的障害)

今、子どもたちの間でブームになっているのが折り紙です。柄付きの可愛い折り紙で、職員に教えてもらったり、本を見たりしながら、くす玉、鶴、えんぴつ、小箱等作っています。最初は「難しい」「先生、教えて」「手伝って」と言っていた子どもたちも、今では一人で上手に完成させ、「先生、見て」「出来た」と言ってきます。

ユニット内には、たくさんの折り紙の作品が並んでいます。まだまだ、自粛生活が続きますが、その中で出来ること、楽しむことを探し、子どもたちと一緒に過ごしていきたいと思っています。

### ひまわりユニット (知的障害)

コロナ禍の状況は続いておりますが、今年度は万全な感染対策を行い、行事を楽しみました。夏、バスハイクで、『冒険の森inおうじ』へ行き、ツリートップアドベンチャーを初体験！終盤の150m池越えのロングジップラインは疲れを吹き飛ばす爽快感を味わい皆大満足でした。また奈良県児童施設連盟の球技大会に参加し、他施設との交流でいい汗を流し、夏祭りではボリューム満点の屋台メニューと、夜は花火大会で盛り上がりました。

冬、ユニバーサルスタジオジャパンの招待に参加し、久しぶりの遠出に皆大はしゃぎ！絶叫マシンでストレス発散！！楽しい時間を過ごしました。

来年度も、元気に楽しい学園生活を目指し、チームひまわり一丸となって頑張りますのでよろしくお願い致します。

### たんぼぼユニット (知的障害)

2021年度のたんぼぼは、コロナ対策で明け暮れました。行事も変更ばかりで、子どもたちもガマンを強いられてきましたが、ユニット内でできることをみんなで考えて、ハロウィンの仮装やスイカ割り、ドッチボール大会などを計画したり、感染状況を見ながら、USJやみつえ青少年旅行村、昆虫館、ボーリングにも行きました。奈良県児童福祉連盟の球技大会では、キックベースで盛り上がりました。子どもたちと、行きたいところをあれこれ話して、コロナの収束を心待ちにしています。

来年度もまだまだ厳しい状況が続くと思われませんが、力を合わせて、アイデアを出し合いながら、楽しいたんぼぼユニットにしていきたいと思っています。

## 学園の活動紹介



### LSW(ライフストーリーワーク)

今年度、初めて実施者としてライフストーリーワーク(以下、LSW)に携わせていただいています。LSWを学び始めた当初は、LSW=ひたすら家族についてふれ、真実告知がメインというイメージがありました。もちろん家族についてふれていきますが、セッションの内容は一人ひとり異なっており、自分自身のことについても振り返ることを知りました。

小学生のときに自分の生い立ちについて本を作成して振り返る授業がありました。覚えていない・知らない情報を家族に質問し、知り得た情報は今も記憶に残っていて、アイデンティティの形成過程等について考えることにも繋がっていたのだと感じています。

LSWは、自分は自分であっていいということを確認すること、自分の生い立ちや家族との関係を整理し、1つずつ確認していく取り組みです。だからといって過去について無理に知る必要はなく、過去を振り返らずに人生を歩むことは出来ると思いますが、LSWを通して自分自身の生い立ち等を振り返ることで出来事の整理や自己理解を深めることにも繋がります。気持ちに寄り添いながら少しずつ点滴のように進めていき「過去-現在-未来」と繋ぎ、前向きに生きていけるよう一緒に取り組んでまいります。

心理指導員 西谷 春希

### 強度行動障害

新施設になるにあたり、強度行動障害の方にも安心して過ごしていただくために必要な支援・環境・知識・技術が求められていました。児童の支援において、どのような障害特性を持っており、どのような支援が必要であるかを日々考えていき、支援方法の統一化を図るために学園業務として強度行動障害研究会が発足するに至りました。

強度行動障害とは、生まれつきの障害ではありません。自傷や他傷、こだわり、物壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動として表れます。これらは周囲の環境や人との関わりによって現れる状態で、このような状態を強度行動障害と呼んでいます。

強度行動障害研究会ではこのような状態にある生活をどのように整えるか検討し、該当ユニットへ提案することに取り組んできました。発足から2年かけて困っている環境を整理しました。予定の確認をしたい特性に合わせて視覚支援としてスケジュール提示を。1日の見通しを持ちやすくするために余暇活動の一環として自立課題の設定。取り組む場所をわかりやすくするための構造化を進めてきました。

今後も該当ユニットだけではなく、学園全体の児童に対して必要な事例検討や生活の整理を中心に取り組んでいきたいと思えます。

主査(保育士) 藤本 圭亮

### クリスマス会

学園全体行事は中止が続いていましたが、子どもたちが心待ちにしていたクリスマス会は、感染症対策をしながら無事に開催できました。職員も子どもも一緒に多目的室をクリスマスツリーや電飾、モールで飾り付けました。センスの良さが光ります。いよいよクリスマスだと期待が膨らみます。

昨年に引き続き、園長・次長扮するサンタ隊も登場しました。各ユニットを訪問してもらったり、多目的室に会いに行ったり、それぞれの子どもの楽しめる形でサンタ隊と交流しました。保護者会からのプレゼントをもらって大喜びです。

「何が入っているかな？」と早速ラッピングを開けていました。サンタ隊の訪問と並行して、各ユニットで工夫を凝らして楽しみました。ケーキとジュースを食べたり、クリスマスクイズをしたり、ペットボトルボウリングをしたりして、盛り上がりました。

来年度も工夫しながら季節の行事を楽しめたらいいなと思えます。

主事(保育士) 辻村 有希



## 手話研修会

令和2年4月に、旧筒井寮と登美学園が一体化になり、視聴覚と知的障がいの児童が入所する施設になり、手話というコミュニケーション方法が加わりました。

旧筒井の職員や私的に手話を学んでいた職員は手話で話すことは比較的スムーズですが、手話を今まで使用していなかった職員には一からのスタートでした。

職員会議の時間を使い、簡単な手話を实际やりながら覚えていくことを行っています。なかなか手話を覚えることで精一杯で、表情がつかないことも多いですが子どもたちと笑顔で話せる日を夢見てやっていたらと思います。

また、コロナ禍ではありますが、子供たち同士も交流しながら聴覚障がい・手話という言語について考えていけたらと思います。

係長(保育士) 小野山 美香

## 子ども達の健康を守るために ～コロナとの共生をめざして～

藤の木学園ではたくさん子どもたちが生活をしています。

毎朝、子どもたちに「おはよう」と挨拶をしながら、体の調子はどうか、元気に過ごしているか観察をしています。コロナ感染予防をしながらの生活のため、子どもたちには窮屈な思いをさせていますが、子どもたちの健康を守るために職員一丸となって努力しております。

これからも子供たちの笑顔を大切に参りたいと思います。

看護主任(看護師) 川邊 祐子

## 令和3年4月新規採用職員の紹介

### (にじユニット 成田児童指導員)

令和3年度新規採用職員の成田美都(なりたみんと)です。にじユニットで生活する子どもたちは手話を主としたコミュニケーションで、手話が分からず意思疎通が難しくもどかしいこともあります。子どもたちと関わりながら手話を覚える毎日です。最近では少しずつ聞き取れるようになり忙しくも楽しい日々を過ごしています。成長をそばで感じながら私自身の成長にもつなげていきたいです。

### (さくらユニット 大平児童指導員)

令和3年度新規採用職員の大平瑞季(おおひらみずき)と申します。社会人1年目で分からないことが多々ありますが、職員の方々に仕事を教わりながら、子どもたちの日常生活支援を行っています。

今後、子どもたちの気持ちに寄り添い、安心して楽しい生活を送ることができるよう支援を行っていきたく思います。よろしくお願ひいたします。



### (ほしユニット 橋本保育士)

令和3年度新規採用職員の橋本和波(はしもとわなみ)です。働き始めもうすぐ一年が経ちますが、最初の頃の気持ちと変わらず、藤の木学園で子どもたちの支援に携われていることをありがたく思います。子どもたちとの散歩やドライブで奈良の名所、穴場を一緒に探索できることが楽しいです。一日一日を大切に子どもたちと楽しく過ごしていきたいです。

### (たんぼぼユニット 曾我保育士)

本年度より藤の木学園たんぼぼユニットに配属となりました、曾我由衣加(そがゆいか)です。知識・経験が少なく、個人の特性理解や関わり方に苦戦する1年間でしたが、個性豊かな子どもたちとの生活に、今では楽しさも感じています。スキルアップを目指しながら、子どもたちが安心して楽しく過ごせる支援をしていきます。よろしくお願ひいたします。

## 編集後記

藤の木学園が開設以来、ずーっと新型コロナウイルスとの戦いというか共存をせざるを得なくなっています。本来、入所児童の保護者の皆さんとふれあったり、地域の皆様方に学園を知ってもらうための行事等が立て続けに実施できなくなり、また、学園行事も全体で実施する予定のものが軒並み実施できなくなっています。今年こそは、以前のようなふれあいが出来るようにしたいと思いますがどうなることやら……。今後ともよろしくお願ひいたします。